



東京都
ファーストヒルズ歯科

波多野 康祐
先生

今回のアイテム

ブルーホワイトカーバイドバー クリスクロス

特徴的なブレードデザインによる高い切削効率

日常臨床では、歯牙だけでなく様々な被削材が切削の対象となり、特に本邦の健康保険治療では、再治療の為に装着されている修復物を切削除去する機会も決して少なくない。そして、その治療に際して、効率よく、短時間に精密な作業が要求される。

Kerr社より発売されているブルーホワイトカーバイド

ドバークリスクロスは、そんな場面で患者の不快感や術者のストレスを最小限に抑える事が出来る製品である。

ピラミッド型にデザインされたその特徴的なブレードは、切削片を多方向に分散させる事ができ、切削抵抗が大きく減少する。結果として、「少ない振動」「短時間」に硬い修復物をサラサラと切削除去する事が

可能である。(標準的なブレードデザインのカーバイドバーでは切削片が一方向に流れるため、目詰まりや切削抵抗の増加が起こりやすい)

但し、切削効率の高いクリスクロスではあるが、クラウン除去時のポイントがある。それは、バーの円周1/3以下を軽く接触させ、切削時の荷重によって回転数を落とさない様に、

高速回転を保ったまま幅広く当てる事である。

切削幅が狭いと注水が十分になるだけでなく、ブレードが設計値よりも深い角度で被削材と接触し、急制動が掛かり、刃部が接合部から折れる結果となる。

この点に注意すれば、高い切削効率と相まって、刃こぼれの少ないクリスクロスは、スムー

ズな日常臨床をサポートする有効なアイテムの一つになると感じている。

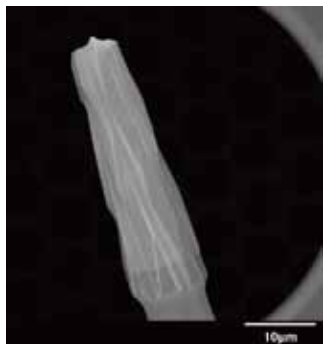
また、再治療後の審美性を考慮して、金属修復物を切削除去する際には、光重合型レジン製の保護材やラバーダムを用いて、歯肉への金属削片の迷入を出来るだけ防ぐ配慮を忘れてはならない。



マージン歯肉周囲をカバーする事により、金属削片が刺さったり、迷入したりする事を防ぐ。



2158(ストレートドーム)のSEM像。ピラミッド型でユニークな幾何学模様のブレードが確認できる。



2171(テーパードーム)のSEM像。